

二十歳に贈る二十冊

天草市立図書館
職員セレクト

『ある晴れた夏の朝』

小手鞠るい//著 偕成社

主人公は夏休みにディベートに参加することに。テーマは原爆投下の是非について。アメリカの子どもたちは何を思うのか。平和と戦争について考えるきっかけにどうぞ。



『獅子と牡丹 Ⅰ』

高浜寛//著 リイド社

埋蔵金探しはもとより、2025年までに今!の天草の各地が登場し、市内在住の漫画家が描く「これは あそこだ!」のリアルさを楽しんでほしい。



『ノウイットオール』

森バジル//著 文藝春秋

サブタイトルのとおり、「あなただけが知っている」物語。5つの短編からなる連作短編で、普段あまり小説を読まない人にもおすすめ。



『本当の自由を手に入れる

お金の大学 改訂版』

両@リベ大学長//著 朝日新聞出版

人生歳を重ねると、お金の重要性が身に染みます。この本を読んで大切なお金について考えてみましょう。



『おんなのことば』

茨木のり子//詩 童話屋

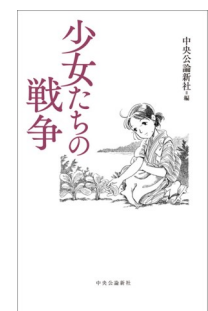
茨木のり子のいくつかの詩集から抜粋された詩集です。「わたしが一番きれいだったとき」それは、日本が戦争に負けたとき。彼女の飾らない思い切った表現が好きです。



『少女たちの戦争』

中央公論新社//編 中央公論新社

瀬戸内寂聴、有吉佐和子、黒柳徹子など27名の著名人の少女時代、戦時下の日常を記したエッセイ集です。にがく、酸っぱく、寂しい青春の言葉が、切なく胸に響きます。



『ひかりの魔女』

山本甲士//著 双葉社

浪人生の孫・光一家族と住み始めた祖母。光一だけでなく、おばあちゃんの周りの人が幸せになっていく。

言葉の魔法…。私たちが使えたら最高じゃない?



『もっと早く言ってよ。』

一田憲子//著 扶桑社

50代の著者が、20代の頃の著者に、生きるヒントになる言葉を語りかける形で綴られている。心のどこかにとどめておくと、ふと立ち止まった時にそっと背中を押してくれるはず。



『カフネ』

阿部暁子//著 講談社

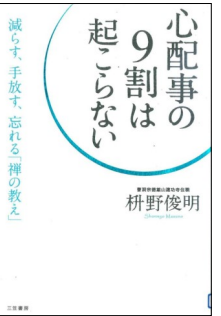
周囲の期待や要求に自分を当てはめるのではなく、自分らしさを大切にして生きていいんだよと語りかける本です。



『心配事の9割は起こらない』

枘野俊明//著 三笠書房

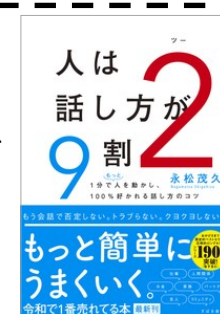
余計な悩みや他人の価値観に振り回されないでシンプルに生きる住職による「人生のコツ」。何かを心配に思ったりモヤモヤしている時におすすめします。心が軽くなりますよ。



『人は話し方が9割 2』

永松茂久//著 すばる舎

「これでよかったかな?」と不安になる前に、この本を読んでおけば簡単に話のコツが分かります。



『四畳半神話大系』

森見登美彦//著 KADOKAWA/角川文庫

退屈な大学生活を送る「私」が”もしあの時違う選択をしていたら?”「たれば」な迷い多き人に贈る、無限の可能性と後悔を描いた青春物語。



『くまとやまねこ』

湯本香樹実//文、酒井駒子//絵

河出書房新社

くまの悲しみが少しずつ和らいていくと同時に白黒の絵が色づいていきます。文と絵で心を温かくしてくれる絵本です。



『世界でいちばん透きとおった物語』

杉井光//著 新潮社

みなさん生まれて20年で、たくさんの本を読んだことがあると思います。それでも、この本の結末はきっと予測不可能!ぜひ、挑戦してみてください。

杉井光『世界でいちばん透きとおった物語』(新潮文庫刊)



『プリティが多すぎる』

大崎梢//著 文藝春秋

週刊誌から少女向けファッション雑誌の編集部へ異動になった主人公が、失敗しながらも仕事に向き合い成長していきます。みなさんが主人公のように経験を積んで成長できるよう祈っております。



『六人の嘘つきな大学生』

浅倉秋成//著 KADOKAWA

映画化もされた青春ミステリー。人の一面だけでなく、すべて見ることの大切さを感じられます。伏線回収も素晴らしい。



『さみしい夜のページをめくれ』

古賀史健//著、ならの//絵 ポプラ社

「『自分だけの1冊』を選ぶ。それは、自分の進む道を選んだんだ。本を選ぶことは、自分を選ぶこと。そして自分を選んだその瞬間、アンタはもう、子どもじゃなくなるのさ」

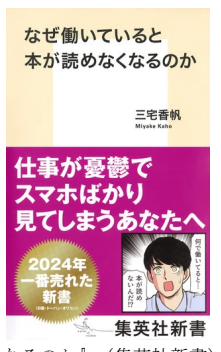


『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』

三宅香帆//著 集英社

すでに働いている人、これから就活をする人もいますが、働いていると読書量が減る人も多いのではないのでしょうか。この本を読めばそんな自分を肯定できるかも。

三宅香帆『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』(集英社新書)



『ぼくらのto be continued』

おおはらMEN//著 KADOKAWA

「公務員かゲーム実況者か。僕は別れ道にいた」失敗しても大丈夫!ゲーム実況者の著者のポジティブな考えがいっぱい詰まった1冊です。

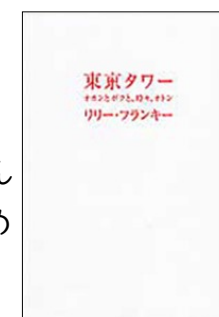


『東京タワー

～オカンとボクと、時々、オトン～』

リリー・フランキー//著 扶桑社

二十歳の本。2005年出版で皆さんと同級生です。家族の大切さを改めて感じさせてくれます。





『Feel good Amakusa』

発行：天草市 制作・販売：かまくら春秋社

天草にゆかりのある33名から寄稿されたエッセイ集が2024年に刊行されました。エッセイのほか、天草の歴史や人物、文化などもまとめて紹介してある、天草の魅力をいっぱい詰め込んだ宝箱のような一冊です。いろいろな視点から天草を見つめなおすと、新たな発見があるかもしれません。



天草市出身の文筆家

みなさんのふるさとであるこの天草市からは、魅力ある作家が多く輩出されています。二十歳を迎えるこの人生の節目に、自分のふるさとをもっと知るきっかけとしても、郷土の作家による作品に目を向けてみてはいかがでしょうか。

いしむれ みちこ
石牟礼 道子

旧天草郡河浦町生まれの小説家、詩人、環境運動家。作家活動のほかに、長年にわたり、水俣病に関する活動を行った。芸術選奨文部科学大臣賞(2003年)他、受賞。

【主な著作】

『苦海浄土』『みなまた海のこえ』
『葛のしとね』『天湖』 など

こやま くんどう
小山 薫堂

旧本渡市生まれの放送作家、脚本家。他にも幅広い分野で活動中。くまモンの生みの親の一人としても有名。天草市民栄誉賞(2009年)他、受賞。

【主な著作】

『恋する日本語』『おくりびと』(脚本)
『つながる技術』 など

たかはま かん
高浜 寛

天草市生まれ天草市在住の漫画家。著作の多くがフランス語に翻訳されている。『ニュクスの角灯』で「手塚治虫漫画賞文化賞」(2020年)他、受賞。

【主な著作】

『ニュクスの角灯(ランタン)』
『愛人(ラマン)』『扇島歳時記』 など

わらべ きみか

旧本渡市生まれの絵本作家、イラストレーター。子どもの知育をテーマとした絵本を多数発表している。

【主な著作】

『てのひらしかけえほん』シリーズ
『スキップ絵本』シリーズ など



大久保美喜子、上中万五郎、黒瀬昇次郎、田口孝雄、鶴田文史、堀田善久、山下陽一、など

【お問合せ先】

中央図書館 TEL:0969-23-7001 牛深図書館 TEL:0969-74-7100

御所浦図書館 TEL:0969-67-3931 河浦図書館 TEL:0969-74-8111 天草市立図書館HP



二十歳に贈る二十冊



令和7年度

天草市立図書館発行